

事業所名	グループホームえがおをみせて (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 1月30日
評価機関名	㈲東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、 ヘルパー2級 、介護支援専門員 B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
「グループホームえがおをみせて」は、岡山市南部灘崎の広い田園地帯の中にあり、近くにはファーマーズ・マーケットやスーパー、郵便局がある。また、デイサービス・老人保健施設・訪問看護等の複合施設「ゆめの里」が併設されており、生活にも利便性があるロケーションである。
母体法人は、グループホームが未だ少なかった2001年4月から、いち早く認知症ケアに取り組み、地域福祉の先駆者として各方面より評価され、地域住民からも大きな信頼を寄せられている。医療施設に加え、介護保険施設を運営しており、お互いの特長・機能を補充し合い、複合的できめ細かいサービスを展開して入居者の多々ある要望に対応している。
運営母体の医療機関が隣接されているので、常時、受診・往診が可能である。緊急時には、直ちに入院等の対応もしてもらえ、家族・入居者は安心してホーム生活を送れる。
入居者・家族の希望によりターミナルケアを取り入れ、人生の終焉を迎える高齢者に対して尊厳に配慮し、身体的・精神的苦悩を緩和するようにしている。このホームで暮らして幸せだったとの言葉もあり、家族の信頼感は深い。
ジェントル・ティーチングという開明的な弱者支援のメソッドを取り入れ、実証している。代表者のチャレンジ精神を職員も共有してケア方針として実施し、その結果は入居者の明るい笑顔・意欲ある姿として現れている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
特段に改善点として指摘すべき箇所は無い。出来れば次の点を提案したい。
地域発展の目的に繋がる目標と理念を掲げ、積極的に地元へのボランティア活動に踏み込み、地域貢献をなされている。今後は、地域推進会議等を更に進めていかれる事を提案する。特に、代表者が研究し、皆で実践したジェントル・ティーチングの理論は、社会的弱者の介護・支援のジャンルに貢献すべきものとして、先ず、この灘崎よりの発信として広まって行く事を期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>「今」という時を大切に、ホームでの共同生活の中で笑顔を交し合いながら沢山の思い出を積み重ねていき、ここで暮らした喜び・素晴らしいさが共感できるように取り組んでいる。</p> <p>入居者を人生の先輩として、常に自尊心と自信を高めるように、また、最後まで尊敬のある暮らしが営めるように努力している。</p> <p>入居者個々の生活リズムを整えながらホーム生活の質をより高め、最大限に自立を促すケアを実現するため、入居者・家族・職員相互の信頼関係の構築に努力している。</p> <p>入居者が安心して過ごせるように、全人的ケアの手法であるジェントル・ティーチングによる支援を展開し、家族・地域との交流の中で、社会的弱者に対して人間らしい意義ある暮らしの実現を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者が情緒的に安定し、一日を心地よく過ごすためにどのような支援が必要かを念頭に置き、ちょっとした仕草・言葉の端々等小さなことも見逃さず、丁寧に観察するように努力している。</p> <p>入居者・職員間に馴染みと信頼関係を作るよう、アイランド型キッチンを取り入れる等して出来るだけ人の輪に入ってもらい、共同作業と触れ合いの良い刺激を与える環境作りをしている。</p> <p>入居者のペースで作業等をしてもらい、一人ひとりのリズムに合わせた生活を楽しみ、自立を助長するように取り組んでいる。</p> <p>各入居者の個性を良く理解し、共用空間に「サブリビング」を設け、各々の居場所を作っている。また、いつも近くで見守り、疎外感を与えない、安心感のある場作りを心がけている。</p> <p>四季を肌で感じ、適度な五感への刺激と自然リズムのある生活環境の中で豊かなホーム生活を楽しめるように配慮している。</p> <p>入居者の表情・行動から、本人の希望や淋しさ・様々な思いを汲み取る事が入居者に落ち着いた生活を生み出すとし、職員は、じっくりとどの方とも話を聞かせてもらう姿勢を心がけている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者の過去の経験や「したい」という意思を考慮して、本人の張り合いを引き出すように試み、自由にその能力を活用できるように支援している。</p> <p>入居者個人への電話は、コードレスで個室に持って行き、電話の会話にも入居者のプライバシーに配慮するよう取り組んでいる。</p> <p>法人関係の書類・入居者の個人情報に関する書類等、個人記録は事務室にて安全に保管され、管理者が責任を持って厳重に管理している。知り得た個人情報は、原則外へは出さず、職員の守秘義務を徹底するようにしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>母体法人の関連施設との合同研修会を開催している。事例研究発表を行ってディスカッションをし、職員に介護技術のレベル向上に関して自己研鑽の意識を持つようになっている。</p> <p>ヒヤリ・ハットやトラブルは事故報告書に詳細に記録し、その日の内に職員でミーティングをして検討を加え、対処方法を研究すると共に再発防止に繋げている。</p> <p>年2回、夜間と昼間を想定して、入居者及び職員の避難訓練を実施している。事があった時に備え、予定通り安全に避難できるか実際にシミュレーションをして、心の備えを怠らないようにしている。</p>		